

本当の「再生」とは—— 3年越しの白米を分け合った 被災者と支援者の協働

巨大な人災だったという声の多い福島第一原発事故。その放射能汚染の影響で全村避難を強いられた福島県の飯館村で実験米作を続け、放射能の影響を調べて、再生への試み続ける人々がいる。そんな草の根からの再生の思いと行動が、いま、汚染されたと思われた大地からの恵みを確実に取り戻しつつある。

取材・文／オフィス三銃士 写真提供／ふくしま再生の会



穏やかな山里の風景が広がる飯館村。しかし、この地から人々の営みが消えてからもうすぐ5年の月日が経とうとしている

平和で美しい農村風景
ただ人の姿だけがない

2014年11月初め、その秋に収穫された新米の試食会が行われた。

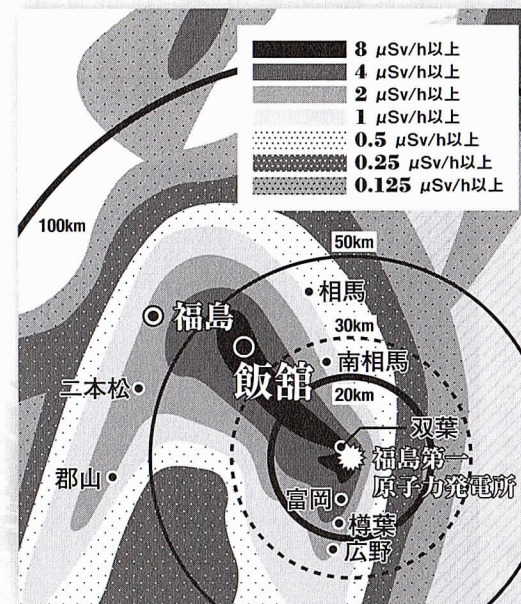
この季節の味覚の定番、東北地方なら、通常、各地で秋の訪れとともにみられる風物詩だ。少しばかり時期が遅れているように思われるかもしれないが、この試食会には特別な意味があった。炊きあがった米はわずかに15合、しかも試食はなんと4年ぶりのことだったのだ。しかし、それも当然のことかもしれない。つくられた米の収穫地は福島県飯館村。東日本大震災の福島第一原発事故による放射能汚染の影響で全村避難区域に指定され、大規模な除染が行われてきた土地だったからである。

試食会に参加したのは認定NPO法人「ふくしま再生の会」のメンバー15人。いまでは会員数

300名を数える同NPO理事長の田尾陽一さんが飯館村と出会ったのは、大震災後の2011年6月のことだったという。

「震災の本当の惨状は実際に自分の目でみなければわからない——そんな思いから十数人の仲間と連れだって、クルマで福島を回りまわした。案内してくれた人がたまたま飯館村を知っていた。そこで帰りに足を延ばしてみようという話になったんです」

原発事故の当初、特別の警戒情報もないまま、逆に避難民を受け入れていたその村が全村避難対象に指定されたのは、震災当日から



東電福島第一原発事故で大気中に放出された大量の放射性物質は、風に乗って飯館村などに降り注いだ

1カ月も後のこと。それから2カ月ほど経った6月の初め、飯館村には緑も鮮やかな里山が続く美しくものどかな風景が広がっていた。ただ、ほとんどの村民が避難を終えたその地に人の姿はなかった。

「でも残っている人もいたんです。私たちが尋ねた菅野宗夫さんもそのひとりでした」
飯館村の佐須地区で畜産や酪農をしていた宗夫さんは、息子一家を避難させたあとも牛の世話や後始末などのためにまだ村にいた。「居間のこたつを囲んで話し合いました。私たちのなかに物理学や医療関係者がいることを話すと『それならこの土地がどうなっているのかを調べて、本当の情報を伝えてほしい』といわれる。当然、そう思いました」

田尾さんたちは帰京するとすぐに「再

生の会」の活動準備に取りかかる。村の人々と協働して行う活動の目的は、放射能汚染の実態を正確に知り、それをもとに飯館村をはじめとした被災地域全体の再生を目指すというもの。再生のために、放射線計測と放射能分析から始め、農地や住居、山林の除染実験や被災者のケアなどの広範な活動がスタートした。農業再生のための計測と実験もその一貫であり、成果のひとつとしての3年越しの米づくりへとつながったのだ。

して増えていった会員の過半は一般の市民たちだった。しかしなかには大学の研究者などの専門家もおり、除染の範囲も限られていたことから、そのころまでには実験に提供された水田では緻密でいいない空間放射線・土壌放射能測定が協働で完了していた。

「表土を汚染したセシウム137は土壌の奥には浸透しません。そこで田んぼに水を張ってセシウムごと約5センチほどを攪拌し、それを田んぼ脇に掘った穴に流し込みます。代わりに穴を掘ったときに出土した汚染された底土を田んぼの表面に入れて土壌の交換は完了。そこで計測した田圃の放射能濃度は低下し、除染できたことになりました」

「再生の会」の米は、初めて県の米穀検査を受けることになる。もちろん、検査を通っても決して一般には流通させないという条件は付いていてのことではあったが……

「検査当日、検査場に運び込まれた飯館の米袋が次々と放射能測定器を通過してきました。警鐘は一切鳴りません。25ベクレル以下は問題ないということでNA（ノーアンサー）、数値も出ずにパスします。当然です。実験・調査に協力してくれている大学研究室での事前

米づくりに関しては宗夫さんが提供してくれた水田を自分たちで除染し、原発事故の翌年から稲作による残留放射能調査を行おうとしたが、ことは容易ではなかった。

「作付けは禁止されています。国による除染が行われていない以上、どんな作物もつくれないというのが大原則だったんです」（田尾さん）

「再生の会」の情報が広まるにつれ、その目的に賛同

「再生の会」の米は、初めて県の米穀検査を受けることになる。もちろん、検査を通っても決して一般には流通させないという条件は付いていてのことではあったが……

「再生の会」の米は、初めて県の米穀検査を受けることになる。もちろん、検査を通っても決して一般には流通させないという条件は付いていてのことではあったが……



田に水を張って、放射性物質で汚染された表土を泥水状態にして洗い流し、地中に埋めて隔離する



被災の翌年から3年越しとなった作付け実験の収穫。さまざまな協働による成果で放射能の影響はほとんどない